



TITLE:

總會に列席して

AUTHOR(S):

木邊, 成麿

---

CITATION:

木邊, 成麿. 總會に列席して. 天界 1934, 15(164): 70-71

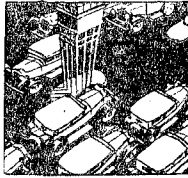
ISSUE DATE:

1934-11-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166921>

RIGHT:



## 總會に列席して

木 邊 成 麿

全國 771 ミリの大高氣壓に被はれた絶好の秋日和、氣溫は快適、風もなく、どうかするとセチガライ世の中を忘れて浮かれ出しそうな日であつた。近所の山にも、その爲か踊り松茸が出たと聞き花山一面上品な秋の香に満ちて居た。折しも海軍機60台が京洛の空を蔽ひ爆音勇ましく飛び去つて、15時1分 前長老改發氏の溫好な顔が座長席に着かれ、近來稀な盛況の總會が開かれた。議事も型の如く終り山本會長より水野副會長母堂逝去の報告あり、一同嚴肅に哀悼の意を表す。次いで會の發展等につき話され、<sup>「</sup>現在機運は熱し乍ら天文誌が店頭飾されないのは不思議で、この方面に着手すれば必ず普及には絶大の功があらう。<sup>」</sup>又流星觀測の例を見ても會員の力の大きい事<sup>」</sup>を感謝され、<sup>「</sup>一層天文趣味の普遍化の爲めに努力をして欲しい<sup>」</sup>旨等を披歴され、<sup>「</sup>又觀測所が數箇所新設される<sup>」</sup>など話され、天文關係は正にインフレ景氣以上だと一同氣を良くする。

續いて講演に入り山本博士——後に小山さんの 面白い御話しがあるから一言天文普及に關してと云はれ——<sup>「</sup>現在これ位熱と反響がある日本に於て基礎的教育に天文が加味されて居る事の少ないのは遺憾だ。師範學校の如き生徒に興味乃至智識を植える事は 最も根本教育を受ける小學生にそれを自然に移す事になり、大切な事ではないだろうか<sup>」</sup>と實際論を話され、又<sup>「</sup>のみならず天文は總ての學問の上に擴がつて居る基幹的なものである<sup>」</sup>事は論を俟たず、“天文だけの學校が出来ても、そこでは總ての學科が必要であらう”と云ふ至言を引いて終られた。聽て居た我々大いに賛同。次いで小山理學士“先生から面白い話しをすると紹介されたが 一向面白くないが”と御互に譲り合つて<sup>「</sup>ミラ<sup>」</sup>の話に移られた。發見より歴史的に話され、最近非常な分光方面に有力な器械が出来たりして研究が進み、今では週期が階段的に變動するのではないだろうかとか、スペクトルの検査より伴星が発見されそれが珍らしくも白色矮星であり、表面溫度は極大時1850°Cより極小1720°Cに變りM型星の平均に比べて著しく低い事、絶對光度よりの推算で距離は約200 光年、更に驚

くべきは Mt Wilson で干渉計により視直計が計られ太陽の300倍もある巨大な事、一方驚くべく低密度で、空氣の數千分の一である事が知れ、目下變光原因は重力と輻射の均衡の破れたによる脈動及び不整形星の廻轉等の説があるが満足すべき結論には達して居ない——と面白い話をされ、大いに啓發された。そこで年末の極大の事を想像して居ると急に寒い様に思はれて、早や秋の日は暮れて夜の幕が近づいて居るのだ。

次いで研究發表をする勇士がないので「天文用語に關する討論」が始まり話に輪が掛り日本の國字論、漢字論、ローマ字論、日本語論に移り、口角泡を飛ばし氣壓もぐんぐん降つて來たが折悪しく晚餐の御馳走が着き、その上會長夫人よりの“モナカ”が附加されたので甘さにモロクモ解消——

夜には珍らしい好天氣で子午線室と大ドームの屈折機を見學、總會の爲にと云はん許りの上上の成績、土星の美觀を400倍で満喫、鮮かなエンケ空隙を見つめた喜び!! その内に夜も更けて來たので、幸せだつたこの氣流の良さを謝しつつ胸深く「バット」を喫い込み、中空高く掛る月まで届けと吹けば、早や東の方にはオリオンが昇り、ひややかな秋の涼氣の中をいくつかの靴音が坂を降つて居るのに氣付いた。

## 會 告

下記の方々より夫々有意義な寄贈に接しました。茲に改めて厚く御禮申上げます。

九月20日 菓子壹函 總會の茶菓として

山本會長夫人殿

十月9日 金 1.00 圓 風害見舞金

横濱市會員 森久保 茂殿

(附記: 本會はこの寄附金を 吉田薰著 露和辭典 一冊を)  
(購入するのの一部に當て、之を花山天文臺に寄贈致しました。)

十一月6日 金 20.00 圓 故水野比傳子刀自記念寄附

岡山市 副會長 水野千里殿

東亞天文協會